

【美濃市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月）」では、各教科等で育成を目指す資質・能力等を把握した上で、ICTを「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かすことや端末の活用を「当たり前」のこととし、児童生徒がICTを自由な発想で活用するための環境整備、授業デザインをしていくことなどが求められています。

また、本市では、「第2期 美濃市教育大綱（令和3年度～令和7年度）」の中で、「ICT教育や特別支援教育等の多様な学びを支援する教育体制の充実」を掲げており、誰もが安全安心に学ぶことができる教育環境の整備の充実をするとともに、児童生徒が、必要に応じて情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報をわかりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといった情報活用能力の育成を目指していきます。

2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期では、ICT支援員を各校へ週1回派遣し、ICT機器やネットワークのトラブルの対応、端末やアプリなどの操作方法の支援、学習に効果的な活用方法について情報提供など幅広く支援を行っています。また、市教育委員会が中心となり、9年間の発達段階に合わせた情報活用能力の指導計画、情報モラル教育の教材となる「GIGAワークブックみの」の作成をしました。市内小中学校の情報教育主任と「ICT活用研究会」年3回実施し、思考力・判断力・表現力を育成するためのICT活用の授業実践、情報活用能力の育成に関わる実践などを行い、効果的な実践を市内で共有できるようにしています。

令和6年度全国学力・学習状況調査の質問紙より、週3回以上授業でICTを活用している学校は100%です。授業中のICT機器活用場面は、「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」場面など、個別最適な学びのためのICT活用の面での使用率が高い傾向にあります。しかし、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」場面など、協働的な学びのためのICT活用の面での使用率が低い傾向にあります。教職員のICT活用指導力のさらなる向上を目指し、効果的なICT活用の充実を図っていくことが今後の課題となります。

3. 1人1台端末の利活用の方策

(1) 1人1台端末の積極的活用について

全教職員がICT活用指導力を身に付け、向上させることが積極的な活用につながります。各学校の実態を把握し、その課題を解決するために必要な研修内容を位置付けるようにし、児童生徒の端末の積極的な活用を目指します。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実について

本市では、「主体的に課題に立ち向かい、自分の力で解決する力をつける学びの工夫」「対話や協働を通して課題を解決したり、最適解を見出したりする活動の工夫」をした授業改善を行っています。そのために、「ICT活用研究会」が中心となって、一人一人の学習状況を見える化したり、共同作業をしながら自分の考えをまとめたりすることができるような実践を行います。

(3) 学びの保障について

GIGA第1期においては、各学校で特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動の支援を中心に活用をしました。GIGA第2期では、不登校の児童生徒に対する学習活動の支援や外国人児童生徒に対する学習活動の支援など多様な場面でICTを活用することで、全ての児童生徒が学びの継続ができる学習環境を整備していきます。